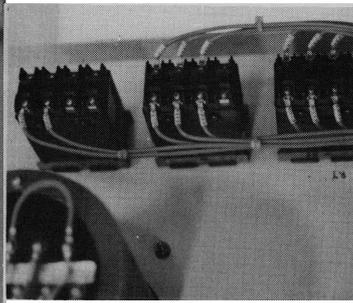
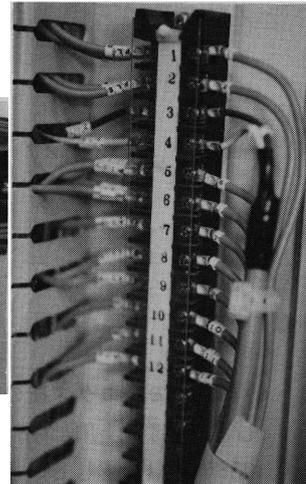


ノコクスはこのように
使われている



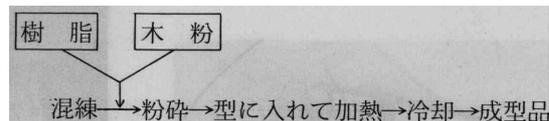
プラスチック成型品



プラスチックに木粉が

スイッチ、プラグ、プレーカーなどといった製品をプラスチックで作るときに、木粉を混ぜておくと強度や耐熱性が高くなりコストダウンにもなります。

使い方



木粉と樹脂の混ぜ方は、粉末どうして混ぜる乾式法と、樹脂液を木粉にまぶす湿式法とがありますが、普通は前者の方法で作ります。木粉の混合割合は樹脂100に対して40～50の量です。

使用する木粉の樹種はマツ、スギ、ヒノキ、モミ、ツガなど針葉樹がおもですが、最近は外材も使われるようになりました。価格は1kg当たり20～100円程度で、使用量は年間約2万トンです。

なぜ木粉を入れるのか

木粉をプラスチック成型品に用いるのは安価で・適度の耐熱性があり、繊維質であることによります。その反面、色がついていることや、やに分や吸水性物質を含むといったことは欠点になりますが、現在の用途ではあまり問題にならないので、もっぱら安価であるという点から木粉が使用されています。

木粉の将来は

成型品は耐熱性と耐絶縁性にすぐれていることから、主に電気部品として使われます。その生産量は大体コンスタントなので、木粉に対する需要は今後とも続くものと考えられます。

しかし、将来、木粉の価格が上がった場合は、ガラス繊維、アスベスト、古布、パルプといったものにとってかわられる可能性があります。これらのものは、色調、耐熱性、繊維長といった点で木粉よりすぐれた性質をもっていますが、価格が1.5倍と高いので、現在はあまり使われていません。

(林産試験場 峯村 伸哉)